

# PEP UP 通信

## ★ 子どもにとって、遊びとは？

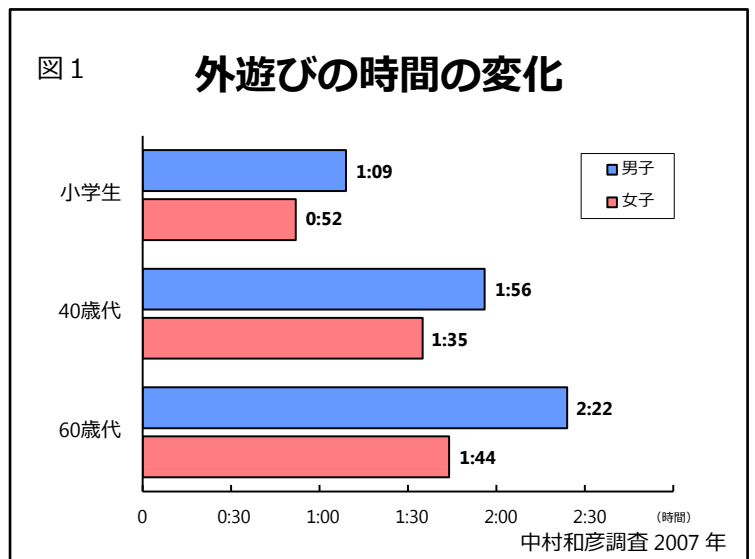
子どもにとって遊びは、生活の主体であるとともに、人間が生涯を通して獲得していく「体や運動の発達」「認知的能力」「情緒や社会性の能力」を学ぶ絶好の場であると考えられます。さらに遊びの衰退が子どもに与える影響として、こころの面では「ストレスの増加」「意欲の欠如」「判断力の低下」「工夫ができないこと」「情緒の欠如」「社会性の欠如」など、また体の面では「体力・運動能力の低下」「動作の未発達」「運動量の減少」「ケガの増加」「生活習慣病の増大」「アレルギーや体温異常の出現」などがさまざまな研究で明らかになりつつあります。

## ★ 子どもの遊びは、どう変わったのか？

子どもたちがおもしろくのめり込んで遊ぶためには、「遊び時間」「遊び空間」「遊び仲間」という3つの条件、『3つの間』が必要です。遊びを充実させる『3つの間』が、近年大きく変化しています。

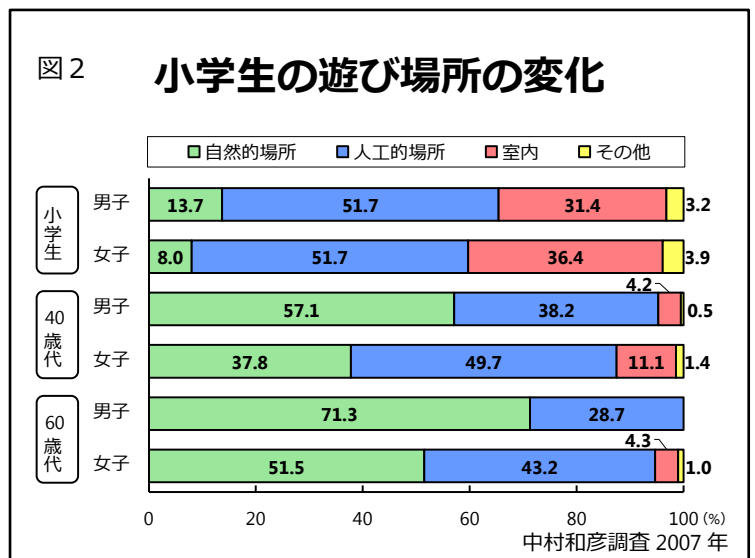
### ① 外遊び時間の激減！

図1は、小学生の外遊び時間を年代別・性別に調べた結果です。現代の小学生はその祖父母（60歳代）や父親母親（40歳代）の小学生時代のおよそ半分の時間しか外で遊んでいないことがわかります。



### ② 外遊びから室内遊びへ

図2は、小学生の遊び場所の変化を年代別・性別に調べた結果です。遊び場所は、40歳代や60歳代の大人では「空き地」「山・川・田・畑」「神社・寺」といった自然的な場所で遊ぶことが多く、自然の中で自由に遊んでいました。一方、現在の小学生は戸外での遊びは「公園」「広場」「庭」のように人工的な場所が多く、さらに、半数近くが室内でしか遊んでいないことがわかります。



### ③ 遊び集団の縮小と変化

いまの小学生は、一緒に遊ぶ仲間の数も少なく、さらに、さまざまな塾や習い事、スポーツ教室に通っているために放課後や土日に仲間と一緒に遊ぶことが難しい状況にあります。

お父さんやお母さんが子どもの頃は、まだこの『3つの間』が十分にそろっていました。今はどれも激減しているのが現状で、これは日本全国共通の問題です。

